

## ならちゅうしん経営研究会 例会報告

### 第 398 回 研究会

日 時 令和 8 年 6 月 17 日(水) 午後 4 時 ～ 午後 5 時 30 分  
場 所 奈良中央信用金庫 3 階 研修室  
講 師 SMBC日興証券株式会社 金融経済調査部  
チーフ為替・外債ストラテジスト 野地 慎 氏  
テーマ 「経済セミナー」  
～2026 年度の金融市場見通し～

最初に、芳仲会長より開講の挨拶があり、サッカーワールドカップが開催され日本代表の活躍に注目したいが、監督のマネジメントにも着目しており、初戦の 3 日前にキャプテンをチームから外すという苦渋の決断を下されました。チームでネガティブな事象が起こった時にどういうメッセージをメンバーに伝えながらまとめて行くのか、経営者として通ずるものがあるかと思いますので、そういう観点も持たれてみてはどうかと思います。本日は経済セミナーということで、ここ数日もアメリカとイランの停戦、日銀の利上げ、日経平均株価が 7 万円突破、私たちの経営環境に大きく影響する出来事が起こっています。本日は今後の見通しについてしっかり勉強して新たな経営的観点を持つヒントを得たいと思います。



芳仲会長 ご挨拶

野地氏は為替アナリストとして大変人気で「週刊ダイヤモンド」に定期連載、テレビ東京「モーニングサテライト」に出演されるなど、ご活躍中のエコノミストです。

まず最初に、これまでのアメリカ経済について解説いただきました。為替とはドル/円相場というくらいですから、アメリカ/日本の比較です。そのアメリカ経済は現状順調に推移して来ました。足元では利上げが必要なのではないかとの流れであるが、経済の過熱感は徐々に薄れ、雇用や物価のノーマライゼーションが進むと見ているとの見解を示されました。求人件数についても減少傾向、失業率は上昇傾向である。一方で個人の貯蓄率は低下傾向にあるが、株価が堅調な状況であれば長期化はしないと予想される。様々な要素があるが総合的に見て来年にかけて利上げという選択にはならないのではないかと予想しています。むしろ、景気減速となれば利下げの可能性もあり、そうなれば日米金利差の縮小により円が買われ一時的には円高に振れるのではないかと。金利差が1%変われば12.89円変わるというデータが出ています。来年にかけての円高の可能性はありますが、長期的目線での視点も必要です。慢性的な貿易赤字と、国内ではNISAの拡充により貯蓄から投資への動きは加速していることで、オルカン等の外国株式投資が増え、結果的にドルが買われている現状があります。したがって、長期目線では円安ドル高傾向が続くという視点が必要との解説をいただきました。

講演のあとも、参加者より内外の経済動向に対する多くの質問があり、今年度最後の経営研究会を締めくくりました。

以 上



講師　SMB C日興証券　野地　慎氏